

2026 年 1 月台湾の工作機械産業の現状

1 月の輸出は前年同期比 15.7%の成長、輸入は 34.8%のマイナス

文/財団法人工作機械発展基金会

2026 年 1 月の台湾工作機械輸出は 1.56 億米ドル、前年同期比 15.7%の増加となり、前月比 0.21 億米ドルの減少で、月間 11.9%減少した輸入部分では、2026 年 1 月の台湾工作機械輸入は 0.50 億米ドル、前年同期比 34.8%のマイナスとなり、前月の輸出と比較すると、0.06 億米ドルの増加で、月間 13.6%成長した。

現在、工作機械輸出は依然として市場の需要の力不足と新台幣ドルレートの相対的強さの影響を受け、輸出受注競争が激しく、輸出金額はかなり低めで、2025 年 1～12 月の台湾工作機械の総輸出額は 20.04 億米ドル、前年同期比 9.6%の減少である。輸出の変化状況を分析すると、2024 年の台湾工作機械輸出は 14.8%下落、2023 年の輸出も 14.0%の下落で、2025 年の下落 9.6%を加えると、最近 3 年間の台湾工作機械輸出は累計で既に 33.8%の下落に達し、既に台湾工作機械産業に大きな衝撃と影響をもたらしている。このほか、主要輸出地域の比率の変化に関しては、中国とアメリカが引き続き我が国の工作機械の最大輸出国である当会の資料分析によれば、中国大陸向け輸出は、中国大陸向け輸出は、2021 年全年の比率 32.2%、輸出金額は 8.95 億米ドルから、2025 年の輸出比率 27.1%、輸出金額は 5.43 億米ドルである。また対米輸出は、2021 年通年の比率 11.6%、輸出金額 3.23 億米ドルから、2025 年通年の輸出比率 15.9%、輸出金額 3.18 億米ドルに伸びている。台湾工作機械の对中国大陸輸出金額は現在年を追って低下の現象を見せ、反対に対米輸出比率は増加しているが、金額ははっきりとした増加とはなっていない。

1. 台湾の工作機械輸出の分析

税関の輸出統計資料によると、2026 年 1 月の台湾工作機械総輸出額は 1 億 5,554 万米ドルに達し、前年同期比 15.7%の成長となり、このうち切削工作機械は 1 億 1,699 万米ドル、前年同期比 15.1%の成長となった。また成形工作機械の輸出額は 3,855 万米ドル、前年同期比 17.8%の成長となった。

(1) 工作機械の製品別輸出状況

切削工作機械の機種別分析では、放電加工、レーザー加工等の非従来型工作機械等は 76.9%の成長で、複合工作機械は 7.5%の減少で、旋盤類は 2.2%の成長で、ドリル、ボーリング、切削、タッピングマシン類等は 3.0%の成長で、研磨機類は 121.6%の成長である。平削り、のこぎり、引き伸ばし、歯車機械類は 20.0%の成長である。成形工作機械の部分では、プレス、パンチングシャ類は前年同期比 20.8%で、その他の成形工作機械は 8.4%の成長となった。2026 年 1 月の輸出統計表に関して、詳細は表 1 参照。

(2) 工作機械の輸出国別状況

輸出国ランクで見ると、2026 年 1 月では中国大陆が第 1 位にランクされ、輸出額は 4,484 万米ドル、輸出の 28.8%を占め、前年同期比 40.4%の伸びであった。

アメリカが第 2 位に位置し、金額は 2,348 万米ドルで、輸出の 15.1%を占め、前年同期比 11.9%の伸びであった。ベトナムが第 3 位に位置し、金額は 1,223 万米ドルで、7.9%を占め、前年同期比 256.0%の伸びであった。インドが第 4 位に位置し、金額は 1,012 万米ドルで、6.5%を占め、前年同期比 12.9%の減少であった。トルコが第 5 位に位置し、金額は 669 万米ドルで、4.3%を占め、前年同期比 20.8%の減少であった。

残りは順に、タイが 4.1%を占め、29.5%の減少であった。ドイツが 3.1%を占め、145.8%の伸びであった。オランダが 2.6%を占め、63.1%

の伸びであった。日本が 2.3%を占め、40.8%の減少であった。マレーシアが 2.3%を占め、23.2%の伸びであった。韓国が 2.0%を占め、480.8%の伸びであった。イタリアが 2.0%を占め、34.9%の伸びであった。イギリスが 1.8%を占め、46.8%の伸びであった。インドネシアが 1.4%を占め、57.7%の減少であった。オーストラリアが 1.3%を占め、57.1%の伸びであった。スペインが 1.3%を占め、83.6%の伸びであった。イスラエルが 1.2%を占め、1686.5%の伸びであった。フランスが 1.2%を占め、164.1%の伸びであった。メキシコが 1.1%を占め、35.2%の減少であった。ポーランドが 1.0%を占め、33.7%の伸びであった。2026 年 1 月の輸出国ランキングに関して、詳細は表 2 参照。

2. 台湾の工作機械輸入の分析

税関の輸入統計資料によると、2026 年 1 月の台湾工作機械輸入額は 5,004 万米ドルに達し、前年同期比 34.8%の減少であった。このうち切削工作機械の輸入額は 4,353 万米ドル、前年同期比 19.7%の減少であった。成形工作機械の輸入額は 651 万米ドルで、前年同期比 71.1%の減少であった。

(1) 工作機械の製品別輸入状況

2026 年 1 月の主要な輸入工作機械は、放電加工、レーザー加工等の非従来型工作機械が前年同期比 133.6%の伸びであった。複合工作機械が 85.9%の減少で、旋盤類 15.6%の減少で、ドリル・ボーリング・切削・タッピングマシン類等は 44.6%の伸びであった。研磨機類は 53.6%の伸びであった。成形工作機械の部分では、プレス、パンチングシャ類が 74.4%の減少であった。その他の成形工作機械類が 42.8%の減少であった。有關 2026 年 1 月の輸入統計表に関して、詳細は表 3 参照。

(2) 工作機械の輸入国別状況

2026 年 1 月の台湾輸入工作機械の主要な輸入元は、日本が第 1 位で輸入額は 2,663 万米ドルに達し、53.2%を占め、前年同期比 182.8%の伸びであった。中国大陸が第 2 位で輸入額は 1,410 万米ドルで、28.2%を占め、前年同期比 49.7%の伸びであった。スイスが第 3 位に位置し、金額は 215 万米ドル、4.3%を占め、前年同期比 187.7%の伸びであった。タイが第 4 位にランクされ輸入額は 181 万米ドル、3.6%を占め、前年同期比 16.0%の減少であった。韓国が第 5 位に位置の伸びであった。その他は順に、ドイツが 2.3%を占め、71.8%の減少であった。フランスが 1.9%を占め、チェコが 1.2%を占め、オーストリアが 0.7%を占め、台湾が 0.6%を占め、0.7%の伸びであった。2026 年 1 月の輸入国ランキング統計表に関して、詳細は表 4 参照。

3. 2025 年台湾工作機械の生産販売状況の回顧と 2026 年の課題

現在、世界の経済発展に影響を与える不確定要素は、ロシア・ウクライナ戦争、地政学的紛争や競争などを含め依然数多くあり、世界経済の発展は引き続き弱々しく、工作機械の海外受注も力不足である。このほか、過去の工作機械の主要な応用市場は自動車産業であったが、自動車産業が従来のガソリン車から徐々に新エネルギー車に転換が進み、工作機械を使用するニーズが減少し、市場競争もより激しさを増している。こうした中、新台幣ドルレートは、競争相手国の日本、韓国などに比してより強勢で、台湾の工作機械輸出の国際競争力を削ぐ流れにもなっている。

関税と為替レートという二重の圧力の下で、2025 年の台湾工作機械輸出は衰退の圧力に直面し続け、通年の輸出額はわずか 20.04 億米ドルと、2009 年の世界金融危機以来となる低い輸出金額を記録し、通年では前年同期比 9.6% の下落となった。かつ直近 3 年間で既に台湾工作機械輸出は累計 33.8% の下落に達し、既に台湾工作機械産業に大きな衝撃と影響をもたらしている。

2025 年は、アメリカの対等関税措置実施とその関税の不確定性の影響を受け対米輸出は 6.8% 下落し、また对中国大陸輸出の部分では、地政学的競争にせよ兩岸関係の緊張にせよ、台湾工作機械の対大陸輸出も連続 3 年大幅に下落し、平均すると毎年下落幅も 12% 前後に達した。上位二大輸出市場の同時大幅下落を受け、加えてロシア・ウクライナ戦争の発生後からヨーロッパ経済の発展が鈍化したこともヨーロッパ工作機械市場の需要を低下させ、2025 年の台湾工作機械輸出の持続的下落を招き、通年の輸出金額は何とか 20 億米ドルの大台を守っただけとなった。

過去、台湾の工作機械は、一貫して高いコストパフォーマンスの優位性をもって、世界の工作機械の競争市場で一定の地位を占めていた。しかし、ここ数年、新台幣ドルレートが相対的に値上がりした影響を受けて、高コストパフォーマンスの優位性は既に消え、コストパフォーマンスは逆に競争相手国の方がより優勢になった。このため台湾の工作機械輸出は、日本、韓国などの高級設備と、中国大陸の中低級設備の市場の挟撃を受け、

標準モデルと汎用モデルなど比較的大きな市場経済規模を有する販売において価格面での競争が難しく、注文の獲得は容易ではない。

高級設備の市場では、これまで台湾の工作機械は世界での競争力を高め、数十年にわたって不断に高付加価値と高級工作機械設備の方向に発展してきた。ブランドの信頼性という制約は受けながらも、台湾の高級工作機械は依然、良好なコストパフォーマンスにより、国際市場で競争し一定の地位を占めている。しかしここ数年、日本円レートが絶え間なく下降し、高級工作機械の輸出は為替レートの差に直面して、日本の設備と国際的に競争することが難しくなった。2021 年から 2026 年 2 月初めまでの為替レートの変化を分析すると、新台幣ドルレートの値下がりはずか 11.0%、これに対し日本円の値下がり幅は 51 韓国ウォンの値下がり幅も 34.2%に達し、かつて台湾設備の販売価格が日本に比べ 2~3 割安かったという価格差は完全に消失し、現在では台湾の高級工作機械の機種は、国際市場で高コストパフォーマンスの優位性を失っている。

他方、中低級設備では、中国大陸の工作機械が自身の品質と精度で既に少なからぬ向上を遂げており、加えてその生産の経済的規模の大きさによって海外販売市場で価格競争面の優位性をもち、国の政策的な外販補助の助けもあるため、台湾の工作機械を、中低級設備で、価格的にも中国大陸と競争することを難しくさせていて、高コストパフォーマンスの優位性もその存在を回復していない。

2026 年を展望すると、為替レートと関税の影響は持続し、高いコストパフォーマンスの優位性で受注を獲得する戦略は既に適用できないものの、ロシア・ウクライナ戦争が迅速に終結し、その戦後再建市場の巨大な規模が、世界の工作機械産業に多くの市場とビジネスチャンスをもたらすだろうと予想した。しかし台湾工作機械は引き続きブレークスルーするきっかけを積極的に探し求める必要があり、新たな発展戦略を立てて、自身のニッチ市場とチャンスを探し求めなければならず、差異化、カスタマイズ化、あるいはグループ化の助けを得て、市場での激しい競争に対応しなければならない。